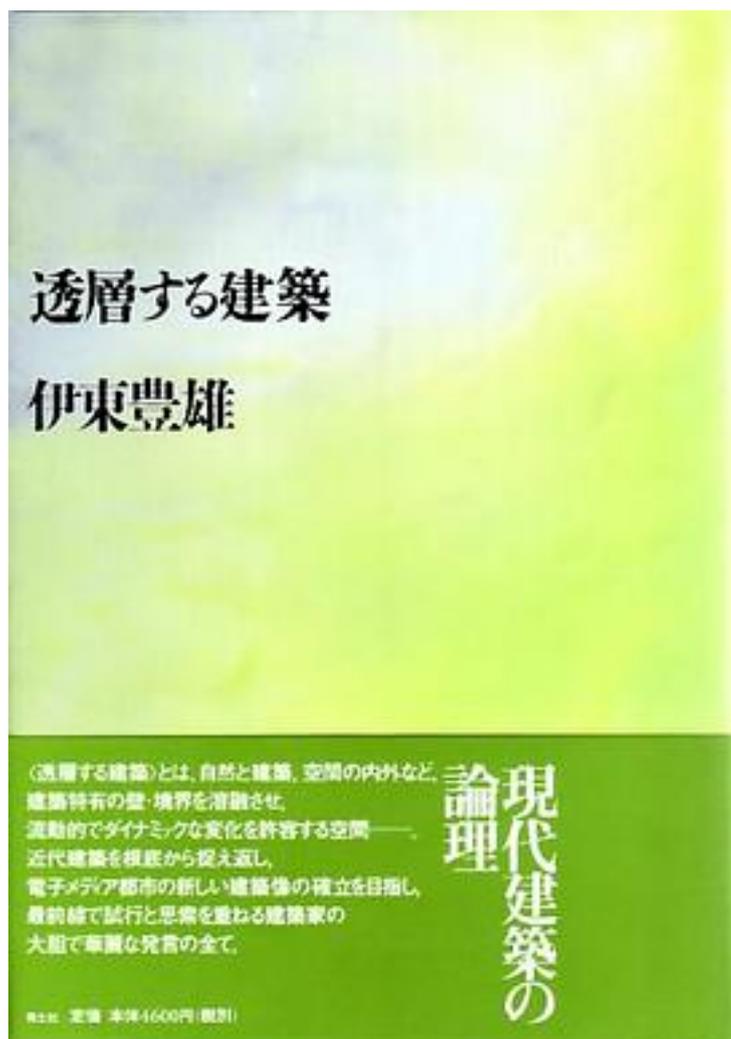


透層する建築



[透層する建築_下载链接1](#)

著者:伊東豊雄

出版者:青土社

出版时间:2000-9

装帧:精装

isbn:9784791758371

「透層する建築」とは、自然と建築、空間の内外など、建築特有の壁・境界を溶融させ、流動的でダイナミックな変化を許容する空間一。近代建築を根底から捉え返し、電子メディア都市の新しい建築像の確立を目指し、最前線で試行と思索を重ねる建築家の大胆で華麗な発言の全て。

近代建築を根底から捉え返し、電子メディア都市の新しい建築像の確立を目指し、最前線で思考と思索を重ねる建築家の大胆で華麗な発言、1988~2000年まで全てを収録。

作者紹介:

目録: 1988――

未来的都市における建築のリアリティとは何か

虚構都市にみる「家」の解体と再生

記憶のなかの九つの都市

1989――

消費の海に浸らずして新しい建築はない

エフェメラルな〈建築〉の試み 八代市立博物館

テクノロジー表現の新しいステップ

レンゾ・ピアノの関西国際空港ターミナルビル応募案

過激なエンターテインメント 石井和紘論

1990――

ポスト・ポストモダニズムをめぐる問いに答える

二十一世紀の幔幕 流動体的建築論

ガラスの界面

皮膚感覚型建築の気配 気配と徴候

「ブレードランナー」について

〈イニューメン〉の舞台美術

AAスクール

時の流れを語る建築 ナイジェル・コーツの建築

1991――

倉俣志朗を悼む

シミュレイテド・シティの建築

私にとっての公共建築

厩気楼のような建築は存在するか 宇宙論の周辺

大学のデザイン教育を憂慮する

若い世代の建築家たちへ

裸の王様メディア・シティに着せる衣服はあるか

高齢者だって都市で快適に暮らせるはずだ

都市の風景を変える集合住宅

建築家へのファックス

都市のノイズが新しい建築をつくる

PMTビルの思い出

マンハッタンに想う

1992――

私の旅路 帰っていく

サラップ・シティの建築風景

リフレクト 反射的空間と吸収的空間

時を漂う建築 スティーヴン・ホールへのメッセージ

毎日芸術賞受賞に寄せて

大橋晃朗の死を悼む

自然再生装置としての建築

1993---

マイクロチップスの庭園 マイクロ・エレクトロニクス・エイジの建築イメージ
包まれる建築を超えて
デザインの向こう側にみえるもの エッソーレ・ソットサスの住宅
ファンタジーの生産機械 レム・コールハースの近作について
湖に捧ぐ

1994---

シングル・ラインのル・コルビュジェ
ベイ・エリアの風景から ふたつのプロジェクトをめぐって
公共建築に何が可能か
建築とプレゼンテーション
心地良い音の環境とは何か 神奈川県立図書館・音楽堂の取り壊しをめぐって
テクノロジーの夢を体現した住宅 ケース・スタディ・ハウス
透明なエロティシズム ジャン・ヌーヴェルのドローイングが語るもの

1995---

都市の透明な森
通過点としての公共建築
エレクトロニック・エイジの動く建築イメージ
「せんだいメディアテーク」の記事に対する質問状
「せんだいメディアテーク」への期待
生成過程の形態
ダイアグラム・アーキテクチュア 妹島和世の建築について

1996---

実直な悪ガキ風長老 高橋訥一
エレクトロニック・エイジの建築
イチローは宇宙飛行士 私の建築に住んでほしい
携帯電話を持たされてもう公衆電話は使いたくない
暗ヤミに浮かぶ別世界 どういうわけか足が向く
タイは何でも「マイ・ペン・ライ」「何とかなるさ」というほどのこと
人はどうして旅をするのか いつのまにやら移動中毒
デザインのひらめきは酔いに似て 倉俣さんの回顧展を見て
事件としての建築 レム・コールハースの〈S. M. L. XL〉
自然体の生活をありのままの空間に

JIA新人賞審査評

1997---

メディアの森のターザンたち
単純明快さへの回帰 公共施設のあり方を考える
新しい住宅の公共性
私空間

1998---

脱近代的身体像 批評性のない住宅は可能か
〈カー口とりベラの家〉にみる他者的身体
形式の死と死の形式 ドミニク・ペローの建築的試み
住宅論

1999---

新しいドミノシステムとしての「せんだいメディアテーク」

2000---

境界思想の変換を 新しい公共施設を開くために
アルミの家への期待
アンダー・コンストラクション せんだいメディアテーク・レポート
あとがき
初出誌紙一覧

・ ・ ・ ・ ・ (收起)

[透層する建築_下载链接1](#)

标签

建筑

日本

设计

:伊东丰雄

伊东丰雄

课题

理论

房

评论

[透層する建築_下载链接1](#)

书评

1988年 地上12米的乐园 高树町的家 奈良丝绸之路博览会
与其说是城市（东京），不如说是“城市”的概念本身是灵感的来源。对于当下的城市

现实，虽然抱批判的态度，但是其中的自由与新鲜也是无法否定的。与其否定今天的建筑现实，不如选取复杂的现实中的一个侧面，通透地表现...

[透層する建築 下载链接1](#)